

バス停タイムス

2017年2月24日

No.40

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

2017春闘勝利を目指して団結しよう!!

2017春闘がスタートしました。私たちJR東海労は、賃金引き上げ一律 6,000 円を要求しています。

JR東日本では、賃上げ交渉の前に社員全員一律一定額のベースアップの実施を勝ち取っています。JR東海も、JR東日本以上にベースアップの著しい格差があり、さらにベースアップしても、等級によって定期昇給の額が変えられて、労働者の賃金格差が大きく拡大しています。

ベースアップの格差に反対し、一律一定額のベースアップを要求するとともに、定期昇給の格差の撤廃をもとめて闘います。

「官製春闘」を乗り越えて闘おう!!

官製春闘といわれて4年目の春闘となりますが、アベノミクスの化けの皮が剥がれてきています。

確かに過去3年の春闘は、賃上げの文字が新聞紙上を賑わせましたが、賃上げができたのは、大手企業だけで、圧倒的多数を占める中小企業では賃上げどころではありませんでした。今年の春闘では大手企業もベースアップではなく一時金の支給にすりかえようとしています。

また安倍首相は「同一賃金同一労働」などと聞こえのいいことを言っていますが、その本音は、非正規労働者の賃金は低く抑え、正社員の賃金水準を非正規労働者並みに削減していこうということです。



JRでも、関連会社の仲間はJR本体と同じように東海道新幹線の安全で快適な運行のために一生懸命仕事をしているのに、賃金や福利厚生は本体のJR東海と比べて非常に低い水準となっています。

このような格差の解消、JRと同一の賃金・労働条件、同一額のベースアップを要求するとともに闘いましょう。

SMTの業務体制見直しは問題だらけ!!

SMTは3月から業務体制の見直しがあります。これは「大そうじ」が廃止されることによる業務体制見直しといわれています。

日勤事業所では11時05分から20時までの遅番勤務が新たにでき、生活パターンが変わることから勤められない人が多くいると聞きます。

夜勤事業所では現在4班体制から1班減らし、3班体制になります。しかし、作業本数は減るわけではなく、業務量はむしろ増えることは明らかです。職場では「今までみたいに飯を食べるひまはない」と言われているようです。SMT労組は、年間休日を増やすことが出来たことは大きな成果だと打ち出していますが、そのために減収となる人も多く発生します。このような組合員の声に真剣に応えるべきです。

SEKの離職者が止まらない!!

SEKでは、昨年若く若い労働者が立て続けに会社を辞めています。それは何故なのでしょう？

連続夜勤の過酷な労働や、交番検査周期延伸により車軸探傷作業は夜間にも行なっていますが、日勤夜勤というきつい勤務形態となっていること。また、労働者の数は増やさず新たな業務を増やしていること。さらにはパワハラまがいの社員管理など、給料のわりに合わないということが最大の理由といえます。また、こういった現状を労組として放置していることも見逃してはならないといえます。

リニア建設のツケを労働者にまわすな!!

関連会社の労働条件が、劣悪になっていくのは膨大なリニア建設費捻出のためではないでしょうか。

私たちは、リニア建設のために、JR東海に関係するすべての労働者の生活を犠牲にすることに反対します。

大井基地で働くみなさん!!

安全と健康を守って働きやすい職場環境を目指して、私たちと一緒に声を上げましょう!!

連絡先(新幹線地本) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-6-5 TEL03-3201-0350
ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/jrcushinkansen2/right.html>
メールアドレス jrcushinkansen@yahoo.co.jp